コンテンツ教育学会 作品論文 ワードテンプレート

Word Template for CCRA Journals (Work papers)

日本太郎\*1　教育花子\*2　コンテンツ次郎\*3

Taro NIHON\*1, Hanako KYOIKU\*2, Jiro CONTENTS\*3

1ページ目に、作品に関する図や写真等を提示する。図や写真等は1枚でも良いし、複数の図、写真をレイアウトしても構わない。作品の内容や成果物等が分かるようにレイアウトし、適宜キャプション等を追加しても良い。

あらまし：これはコンテンツ教育学会に投稿する投稿用原稿をMS-Wordを用いて作成し提出するためのテンプレートである．このテンプレートでは，タイトル，著者名，本文などはあらかじめフォントサイズなどの書式が設定されており，必要に応じてひな形として参照されたい．ここには和文のあらましを記述する．

キーワード：コンテンツ教育学会，ワード，テンプレート，スタイル

# はじめに

　作品論文は作品と作品の説明となる論文で構成する．原稿は完全版下（camera ready）とし，誤字や脱字がないよう仕上げる．1ページ目に作品を提示し，2ページ目以降に論文を記述する．論文タイトルや著者名，見出しや本文など，このテンプレートファイルを参照し，記述すること．

# 2. 投稿原稿の作成方法

## 2.1 投稿原稿の構成

　投稿原稿は下記項目を記載する．

(1)　論文の分類（論文，研究速報など）

(2)　論文題名（和文,英文）

(3)　著者名（和文，英文）

(4)　所属（和文，英文）

(5)　和文あらまし（400字程度）

(6)　和文キーワード（4-5語程度）

(7)　本文

(8)　謝辞（記載する場合のみ）

(9)　参考文献

 \*1 コンテンツ大学教育学部
Faculty of Education, Contents University

 \*2 教育株式会社
Education Corporation

 \*3 大阪コンテンツ株式会社
Osaka Contents Corporation

(10)　付録（付記すべき項目がある場合のみ）

(11)　すべての図，写真，表，およびそのキャプション

## 2.2 見出し

　見出しはレベルに応じてスタイル「見出し１」「見出し２」「見出し３」を用いること．

## 2.3 文章の記述

### 2.3.1 フォントサイズ

　本文のフォントは，日本語：MS明朝 9pt，英数字：Times New roman 9ptとする．

### 2.3.2 句読点

　句点には全角の「 ． 」，読点には全角の「 ， 」を用いる．ただし英文中や数式中で「 . 」や「 , 」を使う場合には，半角文字を使う．「 ．（全角）」や「 ，（全角）」は一切使わない．

### 2.3.3 全角文字と半角文字

全角文字と半角文字の両方にある文字は次のように使い分ける．

* 括弧は全角の「 （」 と「 ）」 を用いる．但し，英文の概要，図表見出し，書誌データでは半角の「 (」 と「 )」 を用いる．
* 英数字，空白，記号類は半角文字を用いる．ただし，句読点に関しては，前項で述べたような例外がある．
* カタカナは全角文字を用いる．
* 引用符では開きと閉じを区別する. 開きには“ を用い，閉じには ”を用いる．

## 2.4 図，写真，表

　すべての図，写真，表には題名（キャプション）をつける．図，写真，表中の文字は刷り上がりの大きさで判別できるように作成する（7ポイントが目安）．題名（キャプション）は中央揃えとする．



図１　図のサンプル

表1　表のサンプル

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| サンプル名 | 大きさ | 重さ |
| AAA | 10mm × 10mm | 10g |
| BBB | 5mm × 10mm | 20g |

## 2.5 参考文献

　参考文献は,以下のスタイルに従ってリスト化し，引用する．

### 2.5.1 文献のリスト法

(a)　著者が複数の場合には，全著者の氏名を記入する．なお，欧文の場合にはイニシャルと姓名を記入し，A.G. Wineのようにイニシャルと姓名の間にのみ半角スペースを挿入する．

(b)　欧文文献においては，常に半角ピリオド「.」と半角カンマ「,」を用いる．和文文献においては，読点には全角の「，」を用い，「vol.」，「no.」，「pp.」あるいは月名等の省略記号及び行末の句点には半角ピリオド「.」を用いる．なお，vol.1，no.1，pp.20-27等の場合には，半角ピリオド「.」の後ろにはスペースは挿入しない．

(c)　発行の年月を記載する場合には，月年の順で，月名には英語を，年には西暦を用いる．

(d)　URLアドレスを参照する場，URLとともに参照日を記載する．

### 2.5.2 参考文献の参照

　本文中に参考文献を引用する場合，［1］のように角括弧の中に数字を記載する．

# 3. むすび

　投稿原稿の準備ができましたらご投稿ください．ご投稿をお待ちしております．

# 謝辞

　謝辞があればここに記載する．

参考文献

[1] 日本太郎，コンテンツ教育の基礎，コンテンツ教育研究，vol.1，No.1，pp.20-27，Jan.2003．

[2] T. Kyouiku, H Contents, and C.D. Tanaka, Design of Contents and Education, Proc. CCRA, vol.2, no.3, pp.84-90, March 2005.

[3] 山田太郎，田中花子，デザイン教育学入門，デザイン出版，1999.

[4]コンテンツ教育事例，http://aaa.bbb.com/ (参照日2016.03.20)